



平成23年12月22日
筑波大学附属病院

新たに国内初となる2つのレジデントプログラムを開設 実地研修を主体とした多分野における医療専門職者を養成

筑波大学附属病院（院長：五十嵐徹也）は平成24年度4月より、高度な知識と実務経験を有する医療専門職者の養成のため、日本初の独自プログラムである「法医学レジデントコース」「医学物理士レジデントコース」を開設します。

これらは、主に筑波大学附属病院内の実地研修（OJT :on the job training）を主体とした実践的かつ先進的なプログラム内容です。

筑波大学附属病院は、1977年より国内の国立大学病院で初めて臨床医のレジデント制度を取り入れました。既存のレジデント制度を、今後需要の見込まれる臨床医以外の職種や臨床医学以外の分野に拡大することで、専門知識と豊富な経験を持ち合わせた多職種の医療人を育成し、さらなる高度なチーム医療の構築と新たな役割分担の創出を推進する狙いです。

※レジデント：専門領域の臨床研修を行う専修医をレジデントと一般に呼ぶ。専門研修医。

■内容

【医学物理レジデントコース】

開始日：平成24年4月1日

研修期間：必要に応じて1年～3年

応募資格：医学物理士認定試験合格者

募集人数：2名

募集期間：平成23年12月26日～平成24年1月20日

特徴：

近年、放射線治療の質の向上と安全管理体制の観点から、医学物理士という職種が注目されています。医学物理士の資格を有するには、筆記試験に合格するだけでなく、実地研修（on the job training: OJT）が必須要件となります。米国ではすでに「医学物理レジデント制度」が存在しますが、日本ではその整備が遅れており、筆記試験に合格しながらもOJTを受けられないために、資格を持ってない優秀な人材が数多く存在しています。本プログラムは、大学病院と大学院が連携して、OJTを主体とした教育を実施する国内唯一であり、1～3年のOJTを附属病院で行います。

【法医学レジデントコース】

開始日：平成 24 年 4 月 1 日

研修期間：4 年間

応募資格：初期研修医修了者

募集人数：若干名

募集期間：通年採用

特徴：

本コースは体系的なプログラムに基づいて「法医学医」を養成する全国で初めてのプログラムです。現在法医学の専門医は全国的にきわめて不足しています。今後、死体検案、あるいは行政解剖や死亡原因解明のモデル事業などにおいて解剖業務の増加が予想されており、正確な死亡原因を究明することの社会的意義は大きいものです。本レジデントコースでは病理学、放射線科、内科などの臨床研修も取り入れつつ、筑波大学法医学解剖教室にて専門的修練を行うようなバランスのとれた研修内容とし、4 年間で「法医学専門医」、「医学博士号」を取得できるコースを来年度から立ち上げます。筑波大法医学教室は年間 250 体の解剖を行っており、さらには筑波メディカルセンターの剖検センター等でも研修を行う予定であり、豊富な研修環境を整えています。

■応募先、応募者からの問い合わせ先

〒305-8576

茨城県つくば市天久保 2-1-1

筑波大学附属病院総合臨床教育センター

事務担当：病院総務部総務課（教育支援）

TEL：029-853-3516・3523・3520

FAX：029-853-3687

E メール：kensyu@un.tsukuba.ac.jp